

I. 導入

おはようございます。今日は、皆さんにまず質問をしたいと思います。あなたの目前で、神が驚くべき働きをなさったら、あなたはどう反応しますか。周りの人々がみんな聖霊に満たされたら、あなたも御霊に心を開きますか。今日の聖書箇所、使徒言行録 4 章 5 章をこれからよみますが、自分も弟子たちとそこにいると想像してみてください。それは、神が聖霊をとおして、信徒たちの間で飛躍的に働かれ、神の教会が始まった場面です。しかし、サタンもじっとはしていません。悪魔は新しい信徒たちに仲間割れさせるチャンスをいち早く見つけようとします。では、使徒言行録 4:32-5:11 を読みましょう。

II. 聖書朗読 使徒 4:32-5:11 (新共同訳)

4:32 信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものと言う者はなく、すべてを共有していた。4:33 使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。4:34 信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売っては代金を持ち寄り、4:35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配されたからである。4:36 たとえば、レビ族の人で、使徒たちからバルナバ——「慰めの子」という意味——と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、4:37 持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

5:1 ところが、アナニアという男は、妻のサフィラと相談して土地を売り、5:2 妻も承知のうで、代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた。5:3 すると、ペトロは言った。「アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。5:4 売らないでおけば、あなたのものであったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」5:5 この言葉を聞くと、アナニアは倒れて息が絶えた。そのことを耳にした人々は皆、非常に恐れた。5:6 若者たちが立ち上がって死体を包み、運び出して葬った。5:7 それから三時間ほどたって、アナニアの妻がこの出来事を知らずに入って来た。5:8 ペトロは彼女に話しかけた。「あなたたちは、あの土地をこれこれの値段で売ったのか。言いなさい。」彼女は、「はい、その値段です」と言った。5:9 ペトロは言った。「二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。見なさい。あなたの夫を葬りに行った人たちが、もう入り口まで来ている。今度はあなたを担ぎ出すだろう。」5:10 すると、彼女はたちまちペトロの足もとに倒れ、息が絶えた。青年たちは入って来て、彼女の死んでいるのを見ると、運び出し、夫のそばに葬った。5:11 教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。

III. 教え

この箇所は、信徒たちの喜びと一致をとらえた美しい描写で始まっています。信徒たちは皆、すべてのものを共有し、互いに励まし支えあっています。なぜこのような一致と喜びが可能となったのでしょうか。その答えは、使徒 4:31 に見られます。「4:31 祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした。」このように一致できたのは、すべての者が聖霊に満たされていたからであり、イエ



スの福音を宣べ伝えるという共通の目的によって結ばれていたからです。信徒たちの内なる聖霊の働きにより、神は目覚しく前進しておられました。こういうわけで、(使徒 4:32) 「信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた」のです。天国を垣間見るような実に美しい姿です。

想像してみてください。あなたがこの弟子たちの一人だったら、こういう新しい共同生活にどう反応するでしょう。喜んで参加しますか。それとも躊躇しますか。そこにいたふたりの男性、バルナバとアナニアの反応は聖書にあるとおりでした。この二人の話は、聖霊の劇的な働きに対する対照的な反応について例証しています。まず、バルナバと呼ばれるヨセフの話です。(使徒 4:36-37)「4:36 たとえば、レビ族の人で、使徒たちからバルナバ——「慰めの子」という意味——と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、4:37 持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。」バルナバは、はじまったばかりの教会を建て上げる主の働きを支えたいという純粋な気持ちで献金を携えました。献金は惜しみなく捧げられ、ありがたく受け取られたのです。バルナバは聖霊の導きに心を開き、神を信頼して従いました。ためらいもなく、一部を手元に残すこともなく、土地を売った代金全額を捧げました。使徒 9-13 章には、バルナバが信仰の成長を遂げ、宣教に携わる姿が描かれています。バルナバは、主イエスにすべてをゆだねた人のたいへんよい例です。



しかし、サタンは常に物事を汚す機会を狙っています。イエス・キリストにある兄弟姉妹が一丸となって神の御国のために働き、成果を挙げるところには、必ずサタンが忍び寄り、問題を起すチャンスをおかかっています。たいてい、弱い信徒を誘惑することでその目的を達成します。今日の個所で、サタンはアナニアとサフィラの心の中に、自分のたくらみを実行する機会を見出します。使徒 Acts 5:1-2「5:1 ところが、アナニアという男は、妻のサフィラと相談して土地を売り、5:2 妻も承知のうえで、代金をごまかし、その一部を持って来て使徒たちの足もとに置いた。」

アナニアは、教会で神の御霊が働いておられるのを目の当たりにします。そして、自分もその輪に入りたいと思います。アナニアとサフィラも、初めはおそらく誠実な思いで、惜しみなく捧げて良いことをしようとしたのでしょう。バルナバの前例を見て、自分たちもそうしたいと思ったのでしょうか。そして、バルナバのように土地を売って特別献金することにしました。けれども、心のどこかで主を完全に信頼することに少しためらいがあったのでしょうか。ほんの小さなためらいが、サタンにとっては十分なチャンスになったのです。

サタンがどんな方法で二人をつまづかせたかは書かれていません。しかし、こんな感じだったのではないのでしょうか。ふたりがためらっているのを見て、サタンが耳元でこう囁きます。「教会とかいうものはよさそうだね。だけど、うまくいかないことだってあるのじゃないか。」こうやって、次々と負の可能性を挙げ連ねます。「使徒たちが処刑されて奇跡が起こらなくなったら。貧しい人がたくさん教会に来て、食べ物十分なくなったら。自分たちのことが気に入らないという人に教会を追い出されたら。」などなど。少しのためらいを悪魔の悪賢いささやきが後押しして、アナニアとサフィラはこう思ったのではないのでしょうか。「うまくいかなかった時に備えて、少し手元に残しておいた方がいいだろう。」

そのような考えは、神を完全に信頼しきれない信仰の弱さをあらわにしています。けれども、彼らが裁かれたのはそれが理由ではありません。主は、信徒の信仰が弱いことで私たちに烙印を押されることはありません。からし種ほどの小さな信仰でさえ、山を動かすのに十分だと言われたのですから。アナニアとサフィラが犯した重罪は、信仰が弱かったことではありません。「土地を売ったお金の一部です。それ以外は自分たちの手元に置いておきます」と言ってもよかったのです。しかし、それでは兄弟姉妹からあまり褒めてはもらえません。この二人は、どうも

人の賞賛を求めていたようです。それで、もうひとつの考えが浮かびました。「代金の一部を手元に置いておくことは、言わなくてもいいんじゃないか。秘密にしておこう。」

サタンの誘惑のわなによって、アナニアは代金の一部を手元においておこうと決めました。それだけでなく、嘘をついて、手元にお金を置いておきながら、すべてを捧げたかのように振舞って誉れを得ようとしたのです。妻のサフィラも、この計画に賛成しました。これは、信仰が弱いことよりはるかに悪いことです。霊的な高慢と偽善という罪です。こうして、アナニアは土地の代金の全部をささげたふりをして、代金の一部を献金として捧げました。

するとどうなったでしょう。使徒 5:3-4 「5:3 すると、ペトロは言った。『アナニア、なぜ、あなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、土地の代金をごまかしたのか。 5:4 売らないでおけば、あなたのものだったし、また、売っても、その代金は自分の思いどおりになったのではないか。どうして、こんなことをする気になったのか。あなたは人間を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。』」

ペトロは、代金の一部だけを献金しても、献金をまったくしなくてもよかった、とはつきり言います。しかし、代金全部をささげるふりをして、一部をささげるのは嘘です。そして、これが神にささげる献金だったので、神に対して嘘をついたのと同じだというわけです。けれども、神をだますことはできません。神はすべてをご存知でお見通しです。そして今回の場合、神はしもペトロに彼らの嘘を知らされ、裁きが直ちに下りました。

この裁きは厳しすぎると思う人もいますが、主は最善をご存知ですから、私たちは主を信頼しなければなりません。神を欺くことはできないということを示すために、裁きがすぐさま下される必要があったのかもしれないかもしれません。はじまったばかりの教会で、高慢や偽善という罪の芽を摘み取るためかもしれないかもしれません。これ以上罪を重ねないために、アナニアとサフィラにとってもこの裁きが最善だったのかもしれないかもしれません。また、二人は厳しく咎められましたが、主は二人のうちに信仰が残っているのを見て、天国に迎えてくださったかもしれないかもしれません。私たちは彼らの心の内を知り得ませんが、主はすべてをお見通しです。そして、何が正しいのかもご存知です。

さて、この個所がスクリーンに出ている間に、もうひとつお話ししたいことがあります。この個所で、聖霊を欺くことと神を欺くことは並列で同じ意味です。これは、聖霊が神として完全に認められていることをあらわしています。また、聖霊がご人格であることもあらわします。抽象的な力に向かって嘘をつくことはできません。ですから、この個所は三位一体の教理を強く支持する個所と言えます。三位一体の教理とは、父、子、聖霊という三格位をもつ唯一神です。三格位を持ちながら、完全なる一致があり、本質的にひとつなので、唯一の神というのが正しいという教えです。三位一体についてさらに学びたい方は、簡単なパンフレットがあります。入口受付の横にある新しいカタログスタンドに置いてあります。

では、今日の聖書個所に戻りましょう。今日の個所の結論は、使徒 5:11 にあるとおりです。「**教会全体とこれを聞いた人は皆、非常に恐れた。**」聖書は、神が愛であると教えます。しかし同時に、神を畏れることは賢明であるとも教えています。私たちは正直なところ、いろんな失敗や過ちを犯したことがあります。つまり、私たちは罪人です。ですから、神の無限の力や義なる裁きを目の前にすれば、恐れを感じるのは当然です。初代教会の弟子たちは、神とともに歩み、聖霊に満たされていました。私たちよりはるかに身近に、神の尽きない愛とあわれみを感じていた人たちです。それでも、アナニアとサフィラに裁きが下ったのを見て、神への恐れを感じたのです。



聖書を学ぶとき、聖書全体をまんべんなく学んだほうがよいでしょう。理解するのが難しい場所もすべてです。多くの人にとって、主を恐れるという聖書の教えは受け入れ難いようです。

しかし、聖書の中にある以上、それは大切な教えです。例えば、**マタイ 10:28** は、お気に入りの聖句にはあまりならないでしょう。「**体は殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、魂も体も地獄で滅ぼすことのできる方を恐れなさい。**」 私たちのお気に入りだけでなく、主イエスのことばであることに変わりありませんから、これを理解して受け入れる努力をしなくてはなりません。私たちはこの世の敵を恐れる必要はありません。この世の敵は、私たちの体を殺すことはできても、それ以上は何もできません。けれども、神は全地の裁き主であり、私たちが永遠をどこで過ごすかを定める権威と力をお持ちのお方です。

詩篇 111:10 はこう教えます。「**主を畏れることは知恵の初め。これを行う人はすぐれた思慮を得る。主の賛美は永遠に続く。**」神は、聖なるお方です。そして義なるすべての裁き主です。ですから、主に対して聖なる恐れを持つのはもっともなことです。しかし、この個所を見ると、主への恐れは結末ではありません。それは、知恵の初めです。そして、それゆえに私たちは神を賛美すべきだということもわかります。聖なる恐れ、畏敬の念を与えてくださった主をたたえましょう。恐れを感謝するとはおかしな話だと思われるかもしれませんが、そうおかしくもありません。主を恐れることは、罪を犯さないで正しく生きるよう私たちを促してくれます。もし正しく生きたいと思うなら、主への恐れが大きな助けとなるでしょう。また、自分の罪に対する神の裁きを恐れることから、神の愛を知るようになった人がたくさんいます。

マタイ 11:16-17 で、イエスはこうおっしゃいました。「**11:16 今の時代を何にたとえたらよいか。広場に座って、ほかの者にこう呼びかけている子供たちに似ている。 11:17 『笛を吹いたのに、／踊ってくれなかった。葬式の歌をうたったのに、／悲しんでくれなかった。』**」文脈から、笛はイエスの働きを象徴していることが分かります。そして、葬式の歌は洗礼者ヨハネの働きを象徴しています。イエスはそのお働きの中で、神の愛をあらわすことに焦点を当てておられました。一方、洗礼者ヨハネは、罪を悔い改めなければならないという厳しい警告で、神への恐れを人々の心に起こしています。イエスよりも前に、洗礼者ヨハネが人々に語りました。それは、神への恐れを教えることにより、人々の心が神の愛を受け取れるように備えるためです。神を恐れることは知恵の初めです。神の愛は、知恵の完成です。けれども、神への恐れにも神の愛にも反応しないほどにかたくなな心の持ち主には、裁きが迫っています。

バルナバの話は模範であり、アナニアとサフィラの話は警告です。私はバルナバのようでありたいと思いますが、主を完全に信頼するのをためらうとき、私自身のうちにもアナニアが見え隠れします。そのようなときに、サタンからの攻撃から神が私を守ってくださるようにと願います。私は弱い者です。自分の知恵や力では、サタンの巧妙な策略を見通すことも打ち負かすこともできません。ですから、絶えず神の恵みあわれみを必要としています。そして、みことばにある神のお約束に力をいただきます。とくに、**フィリピ 1:6** のみことばは、私にとって特別なみことばです。「**1:6 あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています。**」

恐れをとおしてであろうと、愛をとおしてであろうと、神があなたのうちに良い働きを始められたなら、必ずその働きを完成してくださると私は確信しています。私たちは、神の愛とあわれみのメッセージなら安心して聞いていただけますが、主からの鍛錬もないがしろにするべきではありません。また主を恐れるようにという教えを煙たがってはいけません。ミズーリの農場の言葉でこのことを言えば、こうです。私たちはラバのように頑固なので、聖なる者への道を歩み続けるにはにんじんもむちも必要なのです。

IV. 結び

信仰の歩みを続けるにあたり、にんじんでは前進できなくても、むち、つまり主への恐れによって前進できる時があります。しかし、先ほど見たように、主を恐れることは終着点ではありません。むしろ、知



恵の初めなのです。私たちが信仰の終着地にたどり着いたとき、そこにまだ主への恐れはあるでしょうか。きっとないでしょう。主の慈しみ深いお働きが完成したあかつきには、私たちが持つすべての恐れは取り去られるでしょう。ヨハネはこれについて**ヨハネ第一 4:18** でこう記しています。「**愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。**」幼い子どもにとって、いたずらをしない理由は、ただ怒られるのが怖いからかもしれません。しかし、子どもが成長して従順を身につけるなら、もはや厳しいしつけは必要ありません。私たちがキリストにあって成長を遂げて完全な者となったら、すべての恐れは消えます。必要なくなるからです。けれどもそれまでは、恐れが果たす役割があるのです。

子を愛する父親は、わが子にしつけも励ましも与えます。そして、神は誰よりもすばらしい皆の父です。私たちは、イエスとイエスの十字架上で成してくださった業を信じることによって、罪の赦しや永遠の救いが与えられるという確かな約束に、励まされ、喜びと希望をいただきます。同時に、主への恐れによって、過ちを犯したときにひざまずいて悔い改めます。そうやって私たちはしつけられていきます。そして、しつけも約束も、天の父の慈しみ深いみこころからやってくるのです。なぜなら、**(コリント第一 11:32)**「**裁かれるとすれば、それは、わたしたちが世と共に罪に定められることがないようにするための、主の懲らしめなのです。**」

昔から、怖がるべきものの代表として、「地震・雷・火事・親父」といいます。しかし、聖書は全能の主なる神だけを恐れなさいと教えます。なぜなら、このお方だけが地球のすべてを裁く裁き主だからです。恐れと愛は相容れないもののように思えますが、実際にはパーフェクトな組み合わせなのです。**詩篇 147:11** にあるとおりです。「**主が望まれるのは主を畏れる人／主の慈しみを待ち望む人。**」

初代教会の時代、聖霊が驚くべき力をもって働かれました。もしあなたがそこにいたら、どう反応したでしょうか。バルナバのようでしょうか。それともアナニアでしょうか。主は、今も働いておられます。そして、聖霊はさまざまな場所で偉大な力をもって一人ひとりに、そして教会に臨まれます。ここ OIC でもそのような働きを見たいと思いますか。もしそうなら、どうか祈ってください。聖霊が大いに注がれるように祈ってください。また、主への恐れとイエスへの愛によって、私たち皆が主を信頼しきることができるよう祈ってください。一人として失われる者がないように祈ってください。

私たちは誰も弱い者です。しかし、主にしっかりと掴まり、主の恵みに信頼をおけば大丈夫です。最後に、**箴言 3:5-6** の知恵の言葉で締めくくりたいと思います。「**3:5 心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず 3:6 常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにしてくださる。**」

祈りましょう。

V. 祈り

愛する天の父よ、

あなたは唯一の神、創造主であられます。そして、被造物すべてを裁く裁き主であられます。あなたの聖なる御名をたたえます。そして、あなたのすばらしい愛と恵みを感謝します。主よ、あなたが私たちを愛してくださったように、私たちもまたあなたを愛せるようにどうか教えてください。聖なる恐れを与えてください。そして、あなたの道を歩み、すべてにおいてあなたを敬い重んずることができるよう助けてください。私たちは、あなたの神聖さを軽んじてしまうことがあります。そして、あなたにふさわしい誉れを十分おささげしていません。イエスの御名と十字架で成された御業によって、どうか私たちの罪をお赦しください。そして、あなたとの正

しい関係へと立ち返らせてください。あなたの聖霊で私たちを満たし、あなたの愛と恵みを大胆に語るように助けてください。私たちをあなたの民として聖別し、あなたの御名に栄光をもたらす者としてください。私たちの人生、家庭、教会、そしてこの地で、あなたの御名に栄光がありますように。イエスの尊い御名により祈ります。アーメン。